

1 学校の内外環境の分析

外部環境	<p><b>O</b> (支援的要因)</p> <p><b>【地域】</b>                      ・保護者・地域住民は学校に対して理解があり取組を肯定的に評価している。地域の方には学校に貢献したいという思いが強くあり、協力的な方が多い。</p> <p><b>【市教委】</b>                      ・ICTを活用した実践が充実するよう環境を整備している。                      ・教職員の指導力向上や特別支援教育の充実に向けた研修支援体制が整っている。                      ・加配や非常勤講師の配置等予算面での支援がある。                      ・学校が困った時、いつでも支えようとする姿勢がある。</p> <p><b>【県教委】</b>                      ・全ての児童に主体的な学びを実現するための授業改善に向けた支援体制がある。</p> <p><b>【国】</b>                      ・働き方改革の推進 ・新学習指導要領</p>	<p><b>S</b> (強み)</p> <p><b>【学校】</b>                      ・教職員に組織で問題を解決しようとする風土が醸成されてきている。また児童の成長を支えていこうとする熱意、自覚がある。                      ・公共施設等が近く、連携した教育活動を仕組みやすい。</p> <p><b>【児童】</b>                      ・素直で明るく、真面目な児童が多い。                      ・体験活動に意欲的である。</p> <p><b>【保護者】</b>                      ・学校の取組に対して肯定的に評価する保護者が多い。</p>	<p>支援的要因と強みを生かした活動・取組は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「全ての児童の主体的学びを実現するための研究推進と人材育成。</li> <li>・学校運営協議会による学校、地域、保護者が役割を明確にした学校線体制の構築</li> <li>・職員各自の持ち味を最大限に生かした組織づくりとOJTによる達成感を感じる学校づくり。</li> <li>・働き方改革の趣旨に沿った業務改善と意識改革。</li> <li>・幼小中連携教育の充実。</li> </ul>
	<p><b>T</b> (阻害的要因)</p> <p><b>【地域】</b>                      ・地域の中でのかかわりが希薄になるとともに、地域としての教育力が低下している。そのため学校への依存度が年々高くなっている。</p> <p><b>【家庭】</b>                      ・児童がSNSを使う中でのトラブルが増加している。</p> <p><b>【学校】</b>                      ・生徒指導事案や不祥事の増加に伴う教職員を取り巻く勤務状況が厳しい。                      ・ICT機器の活用による情報モラルの育成に課題がある</p>	<p><b>W</b> (弱み)</p> <p><b>【学校】</b>                      ・生徒指導等への対応が組織的に難しい風土がある。                      ・授業改善等、積極的な生徒指導が組織的に行われていない。</p> <p><b>【児童】</b>                      ・自己肯定感が低く、自分に自信を持ってない児童が多い。                      ・個別支援や特別支援を要する児童が多い。                      ・基礎学力の定着が十分でない児童がいる。                      ・苛立つ自分の気持ちを表現する方法を身に着けていない児童が多い。</p> <p><b>【保護者】</b>                      ・教育に無関心で学校への依存度が高い保護者が少なくない。                      ・保護者同士の結びつきが弱く、家庭内の教育力も低下している。</p>	<p>弱みを克服し、阻害的要因を回避する解決策は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進する授業を実現する。</li> <li>・教育相談を充実し、特別支援教育の充実を図る。</li> <li>・学校、家庭、地域のそれぞれの役割を明確にししながら、取組を進める。</li> <li>・不登校の課題を解決するための取組を保護者と学校が連携しながら進める。</li> <li>・「早寝」を中心としたに基本的な生活習慣の定着及び家庭学習の充実と定着を図る</li> </ul>

2 本年度重点目標

- ① 全ての児童の主体的な学びを実現するための授業改善（「問いの工夫」）
- ② 基礎学力の定着のための授業改善
- ③ 暴言・暴力等の生徒指導事案をゼロにする取組（未然防止）、全ての児童の学びの居場所づくり
- ④ 児童の自己肯定感や思いやりの気持ちの醸成（学級活動、道徳教育の充実）
- ⑤ 生活習慣の徹底（早寝、スマホを置いて家族で会話）、家庭学習の定着